



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



2020年 クリスマスのメッセージ

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

みんなはテレーズという^{おんな}子^こを知^しってますか？ 今^{いま}から140年ぐら^{まえ}いにフランスで^う生まれたかわい^い女^{おんな}の子^こです。この子^こは大き^{おほ}くなってシスター^{せいすたー}になります。そして、イエスさまが^{だいす}大好きで、イエスさまに^{さい}いのちをささげながら24歳^{さい}で死^しんでいきました。



そんなテレーズの子^こどものころのお話^{はな}しです。毎年^{まいとし}クリスマスには、小さなテレーズは^{かぞく}家族そろって真夜中^{まよなか}のミサ^{しゆっせき}に出席^{しゅっせき}しました。ミサ^あの^{たの}後^{のち}にお楽^らしみがいつもありま^ありました。それは^{うち}お家の^{だんろ}暖炉^{だんろ}のそばに自分のブーツ^{ぶーと}をおいておくと、その中^なにプレゼント^{ぷれぜんと}が入^いっていたこと^{こと}です。

テレーズは^{すえ}末っ子^こで小さ^ちかったので、そんなクリスマス^{きりすます}のプレゼント^{ぷれぜんと}を^{たの}しみ^にしていま^{いま}しました。ブーツ^{ぶーと}の中^なから一つひとつ^{ひとつ}プレゼント^{ぷれぜんと}を取^とり出^だしては、テレーズは^{よろこ}喜んで、大きな声^{こゑ}で嬉^{うれ}しさを表^{あらわ}していま^{いま}しました。それを^{かぞくぜんいん}家族全^{ぜん}員^{いん}で眺^{なが}めるのが、クリスマス^{きりすます}の夜^{よる}のお楽^らしみ^にでした。

ある年^{とし}のクリスマス^{きりすます}のこと^{こと}です。いつも^{いつも}のよう^{よう}にテレーズが、暖炉^{だんろ}のそば^{そば}にブーツ^{ぶーと}をおき^おきました。プレゼント^{ぷれぜんと}を^きたい^{たい}していた^{いた}のです。真夜中^{まよなか}のミサ^{しゆっせき}から帰^{かえ}ってき^きて、へトへト^{へつ}に疲^{つか}れたお父^{ちち}さん^{さん}が思^{おも}わず、「やれやれ、このプレゼント^{ぷれぜんと}も今年^{ことし}で最後^{さいご}だ」とつぶ^{つぶ}や^やきました。少しづつ^{おとな}大人^{おとな}にな^なって^ないくために、子ども^{こども}の習慣^{しゆかん}をお父^{ちち}さん^{さん}は今年^{ことし}でやめ^やよう^{よう}とした^{した}のです。

お部屋^{へや}に^{もど}るために階^{かい}段^{だん}を上^あっていたテレーズは、そんなお父^{ちち}さん^{さん}の独^{ひと}り言^{ごと}を^き聞いてしま^まいました。テレーズは^{かん}感じ^{かん}やすい子^こでしたから、すぐ^{すぐ}に^わ分^わか^かって、目^めに^ないっ^なぱい^な涙^{なみだ}を^{ため}て、今^{いま}にも泣^なき出^だし^だす^すう^うになりました。だって、^{たの}しみ^にして^{いた}プレゼント^{ぷれぜんと}が^なく^なる^{から}です。しかも、自分^{自分}が喜^{よろこ}んで^{プレ}ゼ

ゼントをもらえば、みんなが喜んでくれるのを知っていたからです。

お姉さんたちは、あたふたしました。というのも、テレーズが一度痙攣を起こすと止まらないことを知っていたからです。それほど、末っ子で、甘えっ子だったのです。そして、何でも自分の思うとおりにできると考えていたのです。

お姉さんのセリーヌは、「下りないで、靴を見ちゃだめ」と注意しましたが、でも、テレーズは階段を下りて、靴に近づきました。涙をこらえながら、心臓をバクバクさせながら、いつものようにプレゼントを引き出して、喜びました。そしたら、家族のみんなにも笑顔が戻ってきたのです。

お姉さんのセリーヌは、夢を見ているかのようでした、と後から話してくれました。

こんなお話です。神父さんはこのお話の意味があまりよく分かりませんでした。でも今年、なんとなく分かったように思うのです。三つのことを考えました。一つは、テレーズはほんとうのクリスマスのプレゼントが何かに気がついたんだと思います。お菓子もうれしい。おもちゃもうれしい。でも一番のプレゼントはお父さんからもらうものではなく、天のお父さまが送ってくださった幼子イエスさまです。そのことに気がついたのでしょう。二つ目は、テレーズは自分のために周りの人たちがいろいろとがんばってくれていることに気がついたのだと思います。ちょっと大人っぽい言い方だと、周りの人がテレーズのために気を使ってくれていたのです。そのことに気がついて、ほんとうに感謝しなければならないのは、周囲の人々のテレーズへの愛情だということに気がついたのだと思います。そして三つ目は、もしかしたらプレゼントをもらえない子どもがたくさんいるということにも気がついたのでしょう。そんな子どもたちに会ったことはないけれど、クリスマスの日に悲しい思いをしている子どもたちがいることに気がついたのだと思います。

今年、2020年はとても苦しい一年でした。大人も苦しかったですし、子どもはもっと苦しかったと思います。世界中の人々が苦しくて、厳しい一年を過ごしました。そして、今も過ごしています。小さな女の子テレーズの、小さなクリスマスのエピソードは、テレーズの生き方を大きく変えました。神父さまからのプレゼントであるイエスさまを大切に、周りの人に「ありがとう」を言えるようになり、困っている人、悲しんでいる人のために祈れるようになりました。

今年のクリスマスはつまらないなって言わないで、このミサの中で幼子イエスさまを、みんなの心の中にいただいて、喜んでお家に帰ってください。

これが、神父さんのクリスマスのメッセージです。